



8月8日投票で行われた小矢部市議選で日本共産党の砂田喜昭氏は1万588票、第6位で7期目の当選を果たしました。

投票日翌日、砂田市議は右動駅前前で市民のみなさんの支援に感謝の気持ちを述べるとともに、公約実現に努力する決意を語りました。

9月議会では、子ども医療費無料化はじめ公約を取り上げ奮闘しました。

中学生の医療費 無料へ

市長 「新年度予算で対応させていただきます」

市議のほが嶋田幸恵議員も質問しました。

桜井市長は子育て支援策全体を考へて、新年度予算で対応させていただきます。現時点ではどういったもので「ぜひ」理解を」と答えました。

北日本新聞は子ども医療費助成制度 中3まで拡充に意欲と3段見出しで大きく報道しました。



No.169
2010年11月号

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

9月議会 報告

桜井市長は9月議会に自らの退職金をゼロとする条例を提出、全会一致で可決されました。「この条例は、今期の桜井市長にだけ適用される特例措置です。」

これは4年前の市長選挙の公約を守るもので、砂田市議は2006年12月議会、今年3月議会予算特別委員会での公約の実施を繰り返し迫ってきました。

県内では滑川市長も9月議会でも市長退職金をゼロにしました。

市長選挙で退職金を受け取らないと公約した候補が当選しているのはあまりにも高額な首長退職金の強い批判があることを示しています。公務員は給料月額に勤続年数をかけて退職金を計算しますが、内閣総理大臣なども国家公務員と同じく勤続年数をかけて計算し、地方自治体の特別職からは勤続年数をかけて計算するから異常に高くなるのです。

市長退職金ゼロ 市長 公約まもる

「みんなの会小矢部 明るい言葉」

山県政をみんなで行く小矢部 迎へ、9月23日第11回目の総会と、あわせて教育懇談会を行いました。

会は30人学級の要求を含む子どもたちによきとどいた教育を求める請願署名を毎年取り組んできました。この声はいまや県民の一致した要求となり、昨年は富山県議会が国の責任による30人学級を求める意見書を採用しました。ただ、義務教育学校の

ゆきとどいた教育を

みんなの会小矢部が10周年で総会、また教育費の無償化をめざし、教育費の父母負担の軽減を、毎回要求してきました。今年4月から高校の授業料を初めて無償化させることまで運動を広げてきました。

総会では運動の成果に自信を持ってさらに署名運動を広げ、1000筆の集約目標を掲げました。また、日本国憲法をよりどころにして「自他の敬愛」にもとづく教育により、すべての子どもの人格の完成をめざす「学校教育の実現をめざす」と話されました。

核兵器のない 平和な世界へ 平和行政の推進を

小矢部市が今年7月、平和市長会議に加盟し、市長が8月6日の広島平和記念式典に参列しました。9月議会提案理由説明で市長は「世界各国の都市と力をあわせて、核兵器のない平和な世界の現実に取り組んでいきたい」と決意を述べました。

これを受けて砂田市議は「原爆写真展などで核兵器廃絶の傘」を批判する

「2020年核兵器廃絶広島会議アピール」を市民に知らせよ

「核の傘」を批判する

「2020年核兵器廃絶広島会議アピール」を市民に知らせよ



石動小学校改築計画

少人数学級に対応する

石動小学校の耐震化のため、全面的に建て替えます。体育館、校舎の基本設計を終え、来年度中(2011年度)の体育館建設、利用開始を目標に実施設計を2月頃までに終える予定です。基本設計の中で、学級定数が少人数に変更になることを見越した設計にするつもりになりました。

中学校の同級会で定年を過ぎた面々が宴会前に「テレビのニュースを見ながら、日本は中国にめめられている」と尖閣諸島での中国漁船領海侵犯の政府の対応を責めているのだ。一部の政治家の中からは自衛隊の配備、日米安保でアメリカの介入を望むなどと言った物騒な議論も聞かされている。日本の実力と決意が足りないと言わんばかりだ。今は無人島の尖閣諸島が何でこんなに大問題になったのか。尖閣諸島周辺海域に石油天然ガスがあるとの調査結果が明るみに出た1970年代初期から台湾、中国が自分の領土だと主張し始めた問題はこれにどう対応するかだ。

「尖閣を、誰の領土にするのか。領海侵犯を取り締まるのは海上保安庁だが力だけでは解決できない。日本政府に足りないのは外交力だ。驚いたことに、日本政府はこれまで中国にも、国際社会にも尖閣諸島の領有の歴史的根拠も、国際法上の根拠も積極的に主張してなかった。日中国交回復時に、中国の鄧小平が棚上げ論を主張したことをいってどうやらやっていたのだ。国会で日本共産党、笠井議員の追及に、前原外相も中国や国際社会に対して日本の立場を発信してきたかどうかについては、大いに反省するところがある」と答弁。言いつくことは道理立ててきちんと言張してこそ解決が図られる。それをめきに力の対応を言っているのは、外交力のなさを自覚しているようなものだ。尖閣問題に対する日本共産党の見解を、本紙今号と一緒にお届けしたい。しんぶん赤旗10月号外でぜひ読んでいただきたい。